



つなぐプロジェクト  
～すべては区民のためだけに～

# 台東区議会レポート



台東区議会議員

# 早川太郎



## 平成30年 第三回定例会 報告

<http://hayakawa-taro.com/> 随時ブログ更新中! Vol.30



9月10日から46日間にわたって開催された第三回定例会は、平成29年度台東区各会計歳入歳出決算の認定のほか、約8億3千万円の一般会計補正予算(第3回)や「政治活動用ポスターの自粛に関する決議」など議案17案件を可決し、10月25日に終了しました。

10月19日には、決算特別委員として区長への総括質問を行い、区財政や区有施設の温暖化対策、区有施設の適正化について、提案・質問を行いました。(質問要旨は裏面をご覧ください)  
すべての世代の未来のために、台東区の未来のために。今後とも区民の皆様の声をいただきながら、台東区政改革に全力で取り組んでいく決意です。ご理解とご協力をお願いいたします。

### 平成30年度一般会計補正予算(第3回)成立。

今回の定例会では、約8億3千万円の一般会計補正予算(第3回)や、基金積立金約1億1千万円を含む約3億5千万円の介護保険会計補正予算(第1回)が審議され、成立しました。

第3回補正予算には、根岸3丁目に認可保育園1園を誘致するための開設準備費用や今年度・来年度に開設を予定している認可保育園5園への補助金増額などが含まれていて、必要な予算と考え賛成いたしました。今後とも、子育て対策など、より一層の充実をはかるべく、全力を尽くしてまいります。

### 平成29年度台東区各会計決算を認定。

平成29年度台東区各会計歳入歳出決算は、決算特別委員会での5日間の費目別質疑や、区長との対面方式で行われる総括質疑を経て、10月25日の本会議にて認定されました。

一般会計決算における歳入は、主要収入源である特別区税が、前年度を約5億円も上回る約215億円。地方消費税交付金は、消費動向による増などにより、対前年度で約3億円の増額。特別区交付金は、財源である法人住民税の減等があり、対前年度で約7億円の減額となってしまいましたが、歳入総額は前年度より約21億円の増となり、区政史上2回目の1000億円を超える結果となりました。

しかし、ふるさと納税の広がりや喫煙者減少の影響で特別区民税等の減収が危惧され、また、法人住民税の更なる国税化が特別区交付金に与える影響は深刻です。歳出では、子育て支援対策への経費の増加や、施設の老朽化対策、高齢者対策などの課題も多く、今後も更なる経費の増加が予想されます。

リーマンショック後とは要因が変化していますが、「区の財政状況は、予断を許さない状況」です。

特別会計を含む全会計では、歳入の増額等の効果により、当初予算で計上していた基金の活用を約21億円取り崩すことなく、約20億円積み増すこともできて、基金残高は約458億円。区債は、約22億円を活用しましたが、約17億円を返済しており、残高は約146億円となりました。

行政計画事業の達成率が約8割だったことに、若干の物足りなさを感じますが、この決算年度においても、しっかりと行財政基盤の強化に努めていると評価し、29年度決算を認定いたしました。

### 荒川下流河川事務所視察



10月24日、岩淵水門を管理している荒川下流河川事務所を視察。

岩淵水門は、荒川へ流れる川の量を調節するための水門です。荒川流域で大量

の雨が降った際に、隅田川の氾濫を防ぐため水門を閉鎖し、隅田川への洪水流入を防ぐ役割を担っています。

昨今、西日本豪雨など、局地的な集中豪雨による洪水・浸水被害等が多発しています。また、大型台風の日本列島縦断による各地の被害は甚大でした。

台東区の三分の二が浸水するとしている洪水ハザードマップの想定が、現実味を帯びてきていますが、その要因となるのが、この河川事務所が管理する荒川右岸の堤防決壊による氾濫です。

河川事務所では、荒川の氾濫防止のためのハード対策として、堤防の高低差を埋めるための橋梁架け替えや、高規格堤防、洪水調節池の整備を進めており、現在ある調節池の上流に、第二・第三調節池の整備に着手しているそうです。また、荒川下流タイムラインの検討や河川情報の提供なども行っています。

現場で説明を受けることができ、大変勉強になりました。水害対策については、更に勉強していきたいと思っています。

